

平成18年度

《第2回特別奨学生試験》

国語

時間40分，100点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

理想的なコミュニケーションとはどういうものか。私は、クリエイティブな関係性だと思う。クリエイティブとは、新しい意味がお互いの間に生まれるということである。たとえば、ある知識を持つ人が、もう一人にその知識を伝えたとする。そこで質問が行われ、対話的に情報が伝えられたとする。その場合、聞き手にとっては、新しい意味が獲得されることになる。一方通行ではなく、聞き手側が質問やコメントといった形でアクションを起こすことによって、話される意味が少し変わってくる。コミュニケーション力を生かして、情報伝達の質を高めるといことはある。しかし、ここで私の言うクリエイティブな関係性は、話をする事でお互いにとって新しい意味が生まれるという関係を指している。先ほどのケースでは、話し手の方には新しい意味は基本的に生まれていない。そうではなく、聞き手が発した言葉によって自分が刺激され、新しい意味を見つけ出すことがある。二人で「ああ、そうだったのか、気づかなかつたね」と喜び合うような瞬間がある。それがクリエイティブな対話の関係だ。自分の経験を振り返ってみてほしい。対話する前には決して思いつくことのできなかつたことを思いついた瞬間があるのではないだろうか。謎が解け、霧が晴れたような快感。脳が活性化し、ワクワクするような気持ち。こうした軽い興奮がクリエイティブな対話にはある。どちらの頭が優秀であるかということを競い合うことが対話の目的ではない。どちらから新しい意味が生まれたのかさえも重要ではない。大切なのは、今ここでこのメンバーで対話をしていたからこそ生まれた意味がある、ということだ。意味に日付と場所を書き添えることさえできる。あのとき、あそこで、あの「意味」が生まれたんだ、と思い返すことができる対話経験があれば、それをコミュニケーションの理想型と設定できる。

(齋藤 孝『コミュニケーション力』より)

語注 ・ コメント…補足的な論評や意見。論評。

・ アクション…人の動き。動作・行動。

《設問》

この文章は「クリエイティブな関係性」という節の一部です。この文章を参考に後の語群の語句をすべて用いて、きみが考える理想的な「コミュニケーション」を1000字程度で述べなさい。(ただし、指定された語句はどのような順序で用いてもかまわないものとする)

・ 新しい意味 ・ 一方通行 ・ 競い合う ・ 対話 ・ 情報 ・ 知識

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

がまくんとかえるくんはとおくへでかけました。ふたりは大きなくさはらをよこぎりました。森の中をあるきました。川のそばをあるきました。さいごにふたりはがまくんのいえへかえりつきました。

「ああいやになつちやう」
がまくんがいました。

「ぼく足にけがしただけじゃないんだ。うわぎのボタンをひとつなくしちゃった」

「しんばいごむよう」
かえるくんがいました。

「ぼくたちのおつてきたところをじきみつかるよ」
ふたりは大きなくさはらへもどりました。ふたりはせのたかいくさのあいだをボタンがないかさがしはじめました。

「きみのボタンだ！」
かえるくんがさげびました。

「そりやぼくのじゃないな」
がまくんがいました。

「そのボタンはくろいもの。ぼくのは白いんだ」
がまくんはくろいボタンをポケットにいれました。

「あめしつれいですが」
ボタンをなくされたんですか？

「わたしみつめましたよ。」
「そりやぼくのじゃないな」
がまくんがいました。

「そのボタンはあなが二つあいているもの。ぼくのは四つなんだ」
がまくんはあなの二つあいたボタンをポケットにいれました。ふたりは森へもどり、くらいみちをさがしました。

「キミのボタンだ」
かえるくんがいました。

「そりやぼくのじゃないな」
がまくんがさげびました。

「そのボタンは小さいもの。ぼくのは大きいんだ」
がまくんは小さいボタンをポケットにいれました。

あらいぐまが一びき木のうしろからでてきました。「ボタンをおさがしだとおききました」
あらいぐまがいました。

「ちようどわたしがみつけたのがあるんです」
「そりやぼくのじゃない！」
がまくんがなきごえでわめきました。

「そのボタンはしかくいもの。ぼくのはまるいんだ」
がまくんはしかくいボタンをポケットにいれました。

ふたりは川へもどりました。どろの中にボタンはないかとさがしました。

「きみのボタンだ」
かえるくんがいました。

「そりやぼくのじゃない！」
がまくんがさげびました。

「そのボタンはうすいもの。ぼくのはあついんだ」
がまくんはうすいボタンをポケットにいれました。

ぶんぶんおこっています。とんだりはねたりきいきいこえをだしたりしてさげびました。

「どこもかしこもボタンだらけなのにぼくのボタンはないんだよ！」
がまくんははしつていえへかえり、ドアをびしやりとしました。

すると、ゆかの上に、ボタンがおちています。「おやまあ」
がまくんがいました。

「ボタンはずつとここにあったんだ。ぼくなんてかえるくんにめんどろをかけてしまつたんだらう。」
がまくんはポケットにたまつたボタンをみんなとりだしました。

「たなからはりぼこをおろしました。そのボタンをみんなうわぎにぬいつけました。」
つぎの日、がまくんは、じぶんのうわぎをかえるくんにあげました。

かえるくんはとてもきれいなうわぎだとおもいました。

かえるくんはうわぎをきて、うれしくて、びよんびよんはねました。

ボタンは一つもとれませんでしたよ。がまくんがとてもじょうずにぬいつけたからですよ。

(アーノルド・ロベール作／三木 卓訳)

『ふたりはともだち』(わり)

《設問》

問一 この文章から読み取れるがまくんとかえるくんの性格を三十五字以内で簡潔に書きなさい。

問二 ———— 線部「しんばいごむよう」とありますが、このときのかえるくんの気持ちを二十字程度で具体的に書きなさい。

問三 —— 線部2「がまくんははしつていえへかえり、ドアをびしゃりとしめました」とありますが、このときの
がまくんの気持ちを三十字程度で具体的に書きなさい。

問四 —— 線部3「そのボタンをみんなうわきにぬいつけました」とありますが、このときのがまくんの気持ちを
三十字程度で具体的に書きなさい。

問五 がまくんのボタンはどんなボタンですか。二十五字以内で具体的に書きなさい。

※すべての問の制限字数には句読点・符号を含むものとする。